

八千代オイコス かわら版

第6号

平成19年10月1日発行
NPO 法人八千代オイコス
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>

川の学校開催 ～川から学ぶ～

8月11日(土)、花輪川で「川の学校」を開催しました。子ども達・ご家族をはじめ総勢61名が参加、賑やかで、楽しい一日となりました。

この事業は、19年度のNPOによる千葉県環境学習受託事業(子ども環境講座)にオイコスが選ばれ開催することになったものです。

参加者の募集には少し苦労しましたが、八千代市環境保全課のご協力や、地域新聞がタイミングよく掲載して頂いたこともあり、八千代、千葉、佐倉、船橋の各市から29名の小中学生が参加しました。

先ず、6班に分かれ水質調査をしました。水のおいしさ、色など、五感を使い水、風景等を感じて貰いました。中でもCODのパックテストは子ども達が大変興味を示しました。



COD パックテストの様子

次に2つの地点に分かれ、川に入って生き物調べです。新島先生から、網の使い方、仕掛けの仕方など教わりました。トウヨシノボリ、ドジョウ、ヤゴ、スジエビ、アメリカザリガニなどを捕まえました。水の中は外気と10度も低く気持ち良かったようで子ども達はなかなか川か

ら上がりたくない様子でした。

お弁当の後は、緑が丘公民館へ移動して花輪川と印旛沼の関係や、生き物についてのお話を聞きました。ブラックバスなど外来種が多くなった印旛沼流域ですが、クチボソ、フナ、メダカなど、沢山の在来種が増えて欲しいものです。

そして、いよいよ「生きものが沢山棲める花輪川大作戦会議」です。班ごとに、どうすれば花輪川に生きものが増えるのだろうと真剣に考えました。「水草を増やす」「ごみを捨てない」「工場、家から汚い水を流さない」など、次々とアイデアが出ます。班で話し合ったことを皆の前で発表しました。



大作戦会議発表風景

「川から学ぶ」水に親しむことにより、生き物や川をきれいにしたいという気持ちが、また、子どもも大人も感じ合い-共有することで、環境保全や、身近な環境への啓発につながっていくものと思います。

最後に修了書の「君も八千代の水はかせで賞」をうれしそうに貰う子ども達の笑顔が印象的でした。(桑波田)

❖ きみも八千代の水はかせ「川の学校」を終えて ❖

子どもネット八千代 片山 由紀子

8月1日、2日の2日間、オイコスさんのご協力を得て子どもネット八千代主催の川の学校を開催しました。今年は台風の心配もなく無事に2日間行なうことができました。夏らしく照りつける太陽の下で元気な子ども達 20名と子ども達より元気なオイコスの皆さんと真剣に、しかも楽しく川とふれあうことが出来ました。

八千代市の子ども達にとって川は身近なものではなく、あまり関係のないものとなってしまっています。そんな中で八千代にも中に入って自分の

手で仕掛けや網を使って生き物を捕まえワクワクドキドキできる川があるというのは貴重な体験でした。

そして環境を守ることは大切だと本や学校で学んでいたとしてもなかなか実感出来なかった子ども達が、この体験を通して自分に出来ることをやろうと話し合えたことが将来につながる大きな成果だと思います。

子ども達にすばらしいことを伝えてくださったオイコスの皆様本当に有難うございました！！

「19年度ホタル調査総括」

夏になるとオイコス恒例行事の「ホタル生息調査」が始まる。今、全国各地にホタルが鑑賞出来る場所は非常に多い。しかし何処も熱心な人達による努力で、えさの確保や生息地一帯の整備と年間を通じて手厚い保護活動による苦勞を重ねてホタルを育てている。

我々が生息調査を行っているホタルはその面での保護活動は無く、殆ど手入れの無い里山の下を流れる小川に頑張っ生きて居る「自然発生のホタル」なのだ。自然のホタルがひっそり明滅しながら生息出来る環境は限られた場所で、しかも年々減少傾向にある。

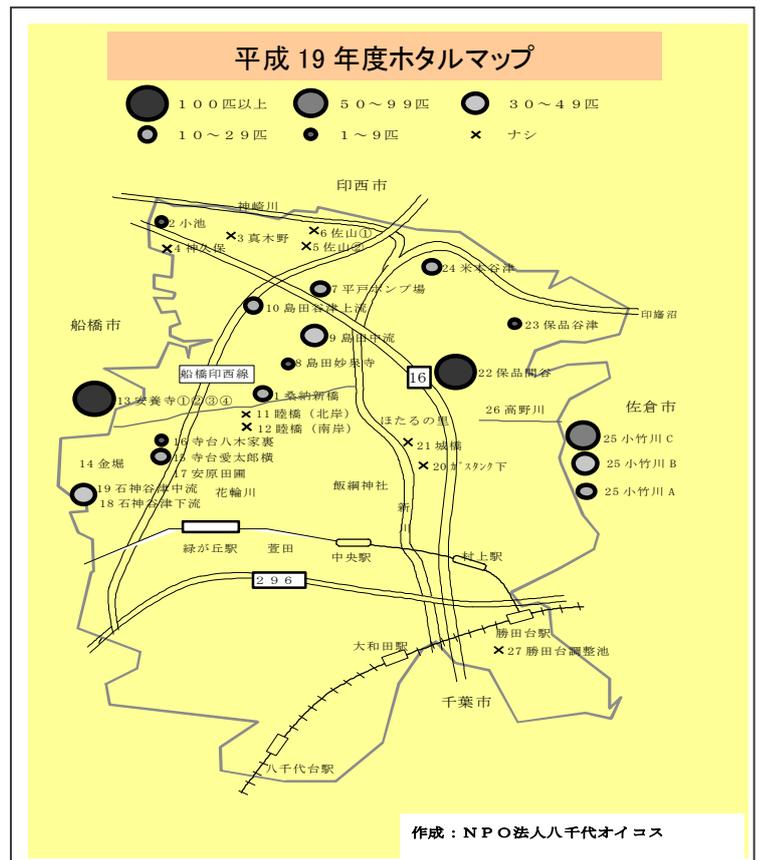
男でも一人で出かけるには勇気のいる寂しい場所が多く、30ヶ所弱ある定点観測地には2～3名のチームを組んで観測を行っている。

一口にホタルと言っても種類が多い。我々の調査の対象は体長がゲンジボタルの約半行程のヘイケボタルで早いものでは6月末頃から観測される。

ホタルの活動は日没後2時間くらいが一番活発である。ホタルにとって高温・高湿度・無風の気象条件が最適な環境で、メスは草叢にひそんで光を点滅させオスを待つ。スーイスイと光を点滅させながら飛翔するのはオスである。

ホタルは10日間程の僅かな命、そんな短い時間を美しい光を放って恋の合図を送り合うホタルの光に人は限り無い夢を貰っているのだ。今年もオイコスのメンバーは手分けをして7月末頃より生息調査を始めた。例年8月上旬頃が一番数の多いピークを迎える。

メンバーの調査は8月末で終了したが、来年も沢山の夢を運んで欲しいものだ。(川瀬)



・・・「エコメッセ2007 in ちば」に参加しました・・・

年々環境問題がクローズアップされる中、今年は参加者も多く80を超える市民団体や環境関連の企業が出展しました。またステージでは循環型社会や地球温暖化防止に関する子供向けのクイズ、気象予報士や女性キャスターのお話など、子供向けの楽しい環境教育が組まれていました。

我がオイコスはこちら数年毎年参加していますが、今までは自分達の展示や竹炭の販売に追われ他の団体の出展を見る機会があまりありませんでした。そこで今回は他の団体の展示やステージでの催しを見学・勉強することに重きを置きました。

また、八千代市保品で炭焼作業をしている「浦安炭焼愛好会」の方々やイオンの社会貢献担当者との意見交換、他の参加団体との交流なども出来ました。

日頃のオイコスの活動にとって有意義なものが多く得られたように思いました。(小原)

《食育の推進シリーズ》(第5回) ～～食教育の取り組み～～

やちよ食育ネットの食教育部会では、乳幼児から学童期の子ども達と保護者に向けて、学校や公民館などを通じた食教育の推進を検討しています。昨年、市内の全小学校21校に対し、食育に関する取組みの現状の確認と食育を推進する上での課題やニーズを把握する為に、アンケート調査とヒアリングを行いました。その結果、現在、農業体験学習を継続的に実施している学校は10校で、米、そば、サツマイモ、ミニトマトづくりなどを行っていることが分りました。

農業体験学習を継続する為には、臨時講師やアドバイザーとして協力をお願いしたいと思っても何処に相談したらよいか分からないという課題があることが分かってきました。

そのような状況を受け、本年、米作り体験を予定していた村上北小学校をサポートして下さる農業生産者を紹介し運動場での特設の田んぼづくりと米づくりが実現しました。

様々な人が関わることで食育をより充実したものにしたいと思います。(寒川)



《10～12月の予定》

オイコスの年末までの主な予定です。お忙しい折とは思いますが是非ご参加下さい

10月	3日	(水)	真竹刈り取り
	7日	(日)	花輪川作業・定例会(農業研修センター)
	27日	(土)	竹炭焼き会(高秀牧場休耕田)
	28日	(日)	花輪川フェスティバル in 高秀牧場
			コスモスウォーキング(東葉高速鉄道主催)
11月	4日	(日)	花輪川作業・定例会(農業研修センター)
	10日	(土)	市民活動サポートセンター祭り
12月	2日	(日)	花輪川作業・定例会(農業研修センター)
	14日	(金)	竹切り・忘年会

★★★ オイコス会員寄稿（第3回） ☆☆☆

オイコスの仲間が趣味や日頃の活動などを通しての自己紹介です。

「あっという間に七年経ちました」

佐々木 秀三



勤めを辞めた後、どのようにして毎日を過ごしたら良いか迷いました。陶芸、盆栽と色々やってみましたが何れも長続きせずに終わりました。

丁度その頃、加藤会長の呼びかけによる炭焼き体験を広報で知りこれだと思いました。

最初は庭先に穴を掘りドラム缶窯で焼いて見ましたが煙がもうもうと上がり、家の中まで焦げ臭い匂いが入ったり、洗濯物が汚れたり、煙たいやらと散々でした。次に裏の竹林70坪を借り、2年ほどドラム缶窯で10回位焼きましたが、半生焼きになったり、焼き過ぎで灰になったりで、思うような良い竹炭が出来ません。特に苦労したのは煙を消す事が大変でした。冷却装置として200ミリと150ミリの塩ビ管で二重にして水を流したら、温度が上がると接着部分が剥がれ窯内は水びたし、次に150ミリ管にビニールホースを螺旋状に60メートル巻いたら水中ポンプの圧力では通水が出来ず失敗と、試行錯誤の連続でした。

最後にビニールハウス用の19ミリ×5.5メートルのパイプ2本をステンレスの煙突の中に入れ冷却水を循環するようにし、今ではカンカンと心地良い金属音のする竹炭が完成するようになりました。

平成12年2月に吉橋で鶴見先生のご指導で始めた竹炭焼きはあっという間の7年間でした。

「谷津干潟と共に」

関野 薫

今思うと加藤さん、小原さんとは環境問題のミュージカルが縁でお会いしました。NPO法人八千代オイコス設立の頃だと思います。

その後は市内のごみマップ作成や花輪川作業にも数回参加させていただきました。

現在、谷津干潟の保全活動をしている「東京湾岸ぐるっとクラブ」で週一回、日曜日に海草のアオサの除去作業をしています。

40ヘクタールの広大な干潟を7～8名で干潮時に合わせて3～4時間の作業です。真夏や真冬にはかなり厳しい現実もありますが、作業後に気の合った仲間とのビールのうまさは格別です。

今年の猛暑にはびっくりしました。突然アオサが消えました。恐らく海水温の異常上昇で溶けてしまったようです。本来は冬には枯れるように無くなっていたアオサが、近年は暖冬で冬でも枯れず1年中繁茂している状態でした。それが突然、無くなると云う自然界の不思議さに思い知らされました。

写真は先日の台風後の9月9日、干潟の1/4近くを埋めてしまった流木やゴミの片付け作業です。

今後は機会を見つけてオイコスの活動にも参加したいと思っています。宜しくお願い致します。



発行責任者

加藤 賢三

事務局&問合せ

小原 翔

☎ 047-450-4663

(メール) info※yachiyo-oikos.jp

注一メールアドレスは変更してあります。※を@に換えて送信してください。